

平成27年11月30日

仙北市議会議長 青柳 宗五郎 様

地方創生特別委員会
委員長 田口 寿 宜

委員会調査(中間)報告書

本委員会で調査研究中の事件について、会議規則第47条第2項の規定により、次のとおり中間報告します。

記

1. 委員会調査(中間)報告書 別紙のとおり

仙北市総合戦略に対する地方創生特別委員会提言
若者を地域に残す・ひとを呼び込む
～覚悟を持って本気に取り組む仙北市創生～

1、 産業振興による仕事づくり

産業振興基本条例のもとに進めて行く事が必要不可欠である。

第一に、産業振興基本条例のもと、事業者並びに経済関係団体と意識の共有を図り強力に進めて行かなければならない。まずは、本条例に定められている産業振興推進委員会の構成をより機動性のあるものにするべきである。具体的には、経済団体や大学、第1次産業から第3次産業の方々が縦・横串で課題解決を図る上での政策立案が出来る体制を整える事が急務である。

また、地域内での雇用拡大や賃金上昇に対する視点と意識の変革が求められる。企業誘致という視点も必要ではあるが、ここでは、本市経済を支えている農林水産業を含め産業を支えている全ての方々・経済関係団体・行政の更なる連携と共に教育関係との関わりが求められる。具体的には次のとおりである。

- ① 事業者及び経済団体等がより深いキャリア教育をおこない易い環境の整備
- ② 事業者や経済団体の協力のもと、真に将来に結び付く学校のキャリア教育の実施
- ③ 商工会・中小企業家同友会等が連携しての共同求人の実施
- ④ 「地消地産」による経済の地域内循環の確立

例) 市内販売の土産物を全て市内事業者で賄う。この分野に関わる新たな起業が発生する。

第二に、農林畜産業についてである。本市において就農を望む者に対しての支援・情報発信を手厚い状況にするべきである。その為には、本市の窓口機能の強化が求められる。新規就農者は、本市に縁もゆかりもない場合が珍しくない。就農への意識は高いが、生活等に大きな不安を抱えているのが現実である。この窓口機能には、就農者の不安軽減、ノウハウの提供、地域・企業等と就農者を結ぶコーディネーターの役割をしっかりと担ってもらわなければならない。具体的には次のとおりである。

- ① 新規就農者の受け入れに協力的な農業法人の紹介
- ② 農家民宿開業等の農業収入を増加させるノウハウ講座等の提供
- ③ 県の農業試験場等と密に連携した、安定した栽培確立のための農業指導・科学的エビデンスの分析・情報提供

また、総合戦略素案には、「農業を中核とした仙北ブランドの創出」「農林業生産物の6次産業化」を強化すると示されている。この2点を実現する為には、従来までの補助、支援の在り方を大きく見直す必要がある。これまでの本市の補助、支援は公平性を旨として来たが、厳しい財政状況を鑑みるとこのような施策は効率性が悪い。加えて、仙北ブランドと成り得た有望株品種への支援が不十分であった事から、市当局には次の点を求める。

- ① 明確な強化ブランド品目の策定
- ② 素材の栽培→加工→販売→雇用の確立（新規就農、移住の受け皿）のサイクルを確立すべく、戦略的な農作物への取り組みと農業法人の立ち上げ、育成
- ③ 事業者からのプレゼンテーション式の支援選出を実現し、起業率の増加の達成

第三に、特区活用事業として、新規就農者の農地取得の規制緩和を提言する。現在の法制上、大規模農地を新規就農者が取得する事は難しい状況にある。しかし、上記の規制緩和が実現すれば、すでに承認されている「農業法人経営多角化等促進事業」と併せ、本市内外からの新規参入や新たな農業法人の設立が期待され、産業振興による仕事づくりが促進されるだろう。

第四に、観光業についてである。年間500万人の観光客が訪れる一流の観光地である本市は、観光地のトップランナーを目指し、他地域のモデルとなるよう邁進していかなければならない。その上で、次の6項目を提言する。

- ① 観光地のバリアフリー化の強化
バリアフリー化が遅れている観光地、施設等は収益が伸び悩んでいる調査結果がある。施設改修への補助金を検討するべきである。
- ② 公共交通の二次アクセスの仕組みづくり
観光名所間の距離が遠く、移動費も割高になっている現状を改善する為に、特区の規制緩和を活用した、四季を通じた各地区間を結ぶ有料バスの運行を検討するべきである。
- ③ 観光客の消費額・農業生産物販売額の増加の実現
観光客のニーズ調査、販売ターゲット、流通状況等、実態調査を行い、基礎データをもとに事業者を応援する体制を構築すると共に、「仙北市の土産物」を多く創り出す。
- ④ 観光地における食の充実
県内産→郡内産→市内産へシフトし、提供品の地域ブランド化を図り、その土地・風土に合わせた食を提供する事が求められる。

⑤ 地域運営体等、地域の意見をくみ取り、地域と一体となった新たな観光施設を創り上げる。

⑥ 新たな視点を持った有害鳥獣対策

ハンターの減少が顕著である中、田畑や桜などを荒らす有害鳥獣にいかに対処し、それを観光にも繋げていく、貪欲な姿勢が求められる。

2、 移住・定住対策

移住・定住対策と産業振興は、互いに補完し合う関係である事を申し添える。

全世代を通して地方への移住希望が高くなっている。しかし、都道府県別に見ると雪国は敬遠されがちである。少ないニーズをいかに本市に取り込むか。他自治体よりも一歩も二歩も進んだ対策が必要である。

第一に、本市は市内外の起業家・事業者にとって魅力的な自治体にならねばならない。特区指定を受けて以来、事業者からの質問、事業提案は多く、現在も続いている。この追い風を有効に活用し、次の2点を提言する。

① 本市で起業した際の、税の優遇措置その他特典等のメリットを広く公開し、事業者に訴える。

② 特区の強みを最大限活用し、移住・定住に繋がる規制緩和を積極的に行う。

第二に、住居対策である。現在の本市では、新婚世帯への家賃、住居リフォームに関して助成を行っているが、移住・定住対策において実績を挙げている自治体の住居に対する取り組みを見てみると、民間を活用した積極的な団地造成、新築住居への助成、一定期間の税制免除、若年夫婦への現金支給が行われている。これらの取り組みを参考に本市らしい取り組みを実施する事が肝要であり、あわせて、本市においては、雪対策に万全を尽くさなければならない。具体的には、次のとおりである。

① 民間を活用しての従来よりも雪よせが軽減され、寒さに強い住居の建築。

② 除雪機などの購入補助。

3、 少子化対策

出会い・結婚・出産・子育て、少子化対策を行う場合、まずは最初の入口「出会い」が肝心であるが、それと同時に、子育て支援の面も真剣に考え、実行して行かなければならない。本市は子育てしやすい環境であるという話を良く耳にするが、どんなメニューがあるのか知らないでいる方々も少なくない。また、「交流」をキーワードに、地域との交流を図りながら地域みんなで子育てをしていく環境づくりが求められる。この事を踏まえ、次の6点を提言する。

① 子育て支援制度をより使いやすくする為に、制度の徹底したPRを行う。

- ② 企業の協力を得ながら、育児休暇制度の充実を図る。
- ③ 常勤小児科医の招聘。
- ④ 子供やお母さん方、地域の方の交流の場の創出を図る上での、公園等の小さな子育て拠点の整備。
- ⑤ 地域運営体や高齢者との交流を柱とした子育て支援。
- ⑥ 第3子以降の出産祝い金制度の創設。

4、新たな地域社会の形成

新たな地域社会を形成して行く上で、市民一人一人の意識の変革が求められる。その中において、まず、これまで以上に市役所職員が地域に入り込み、地域の方々と一緒に様々な活動を展開する事が必要だろう。また、本市全体が当たり前の事を当たり前に行う地域づくりが求められる。こうした点を踏まえ、コミュニティーを再生・創出して行く事こそが、新たな地域社会を形成するという視点のもとに、次の3点を提言をする。

- ① 更なる結び付きを深めるコミュニティーの確立と人づくり。
 - ・各種団体、組織、市民が世代を超えて交流し、学び合う環境づくり。
- ② 地域資源を活かした高齢者の活躍の場の創出。
- ③ 市民一人一人、若い力を引き出し、頑張る人を応援する体制づくり。

最後に、特別委員会から地方創生特区に関連し、国有林・医療の分野で重要な視点からの提言が出されたので申し添えると共に、強く検討を求める。

① 国有林

高齢化によるタケノコ・キノコ類の確保が今後、容易でなくなる現実に直面している。この事から、竹林の荒廃等が懸念され、自然のキノコ類が提供出来なくなり、特産品が消えてしまう恐れがある。こうした危機的状況からの脱却を図る上で、国有林内の特殊林産物の維持確保に向け、民間の力を最大限活用するべきである。

② 医療

がん治療に関して、特区を活かし、免疫チェックポイント阻害剤と玉川温泉の療法を組み合わせ、田沢湖病院をその指定病院・研究拠点とし、国立がんセンター或いは研究機関から医師を派遣していただき、医科学的なデータを取り、研究を進める事で、世界中からがん患者、家族、研究者が集うという、世界のがん治療のメッカを目指すべきである。

特別委員会と各分野で活躍されている方々との意見交換会概要

○第1グループ

- ・メンバー・・・佐藤大成正委員長、阿部則比古委員、荒木田俊一委員、八柳良太郎委員
- ・テーマ「産業振興によるまちづくりと移住・定住対策」
- ・開催内容
 - ① 10/23 午前10:00～ 仙北市役所田沢湖庁舎3階第3会議室
地域おこし協力隊 尾崎美由紀さん
 - ② 10/30 午後1:00～ 仙北市役所中町庁舎
仙北市観光アドバイザー、株式会社ANA総合研究所主席研究員
和田二郎さん

○第2グループ

- ・メンバー・・・田口寿宜委員長、平岡裕子委員、伊藤邦彦委員、真崎寿浩委員、高久昭二委員
- ① テーマ「少子化対策」
 - ・10/30 午後1:30～ 仙北市子育て支援施設「さくらッコ」
 - ・はっぴい・맘会員の方々
- ② テーマ「新しい地域社会の形成」
 - ・11/2 午後7:00～ 田沢湖総合開発センター小集会室
 - ・地域活性化グループ畑楽・浅野慎太郎さん他、地元で頑張っている若手8名

○特別委員会委員全員

- ・テーマ「産業振興によるまちづくり」
- ・11/18 午後4:00～ グランデールガーデン
- ・秋田県中小企業家同友会仙北地区会例会（勉強会）に参加しての意見交換

特別委員会の協議概要

第5回特別委員会（平成27年11月30日）

「仙北市総合戦略（素案）について」

第4回特別委員会（平成27年11月11日）

「仙北市総合戦略（素案）について」

第3回特別委員会（平成27年10月6日）

「高校生アンケート調査結果について」

「仙北市人口ビジョン（素案）について」

「仙北市地方版総合戦略（骨子）について」

第2回特別委員会（平成27年8月10日）

「地方創生特区について」

「地方人口ビジョン・地方版総合戦略等について」

第1回特別委員会（平成27年7月22日）

「今後の進め方について」

平成27年11月30日

地方創生特別委員会

委員長	田	口	寿	宜
副委員長	佐	藤	大	成
委員	阿	部	則	比古
委員	平	岡	裕	子
委員	荒	木	田	俊一
委員	伊	藤	邦	彦
委員	真	崎	寿	浩
委員	八	柳	良	太郎
委員	高	久	昭	二